

漢字の内的統合

7K-12

川添一郎

大阪大学言語文化研究科

1. はじめに

外国人留学生（特に非漢字圏出身学生）の日本語学習において漢字理解は大きな障壁である。漢字理解には大きく(a)字形認識 (b)読み方認識 (c)意味認識に分けられ、(a)-(b)-(c)の関係を正しく捉え適時使用できることが対象漢字を理解したことを意味する。しかし現在のところ漢字教育では個々の漢字を1つ1つ別個に覚えていくという伝統的な学習法が主流であり学習者の負担は軽減されているとは言えない。

本稿では漢字学習システム開発/実装をTargetとしながら(A)構成要素とその結合規則による漢字間の形状の類似性と差異の記述、(B)読み方/意味理解の決定情報の抽出、の2点について考察する。

2. 戦略

(1) 漢字理解の2側面

(a) 漢字形状理解=構成要素の数/種類の抽出とそれらの組み合わせ結合規則の記述

(b) 漢字内容理解=[読み方-意味]パターンの記述とパターン間の弁別情報(文脈情報etc)の抽出

3. 漢字形状理解

2-1. 形状構成要素の2種

漢字を構成する要素には以下の2種類が認められる。本稿ではそれを以下のように定義する。

(2) 形状構成要素

(A) その構成要素自体が単独で漢字となりえないもの (EX) 丨、彳、禾、etc

(B) その構成要素自体が単独で漢字となりえるもの (EX) 日、月、立、etc

学習者は上記構成要素を正確に理解することにより漢字間の形状的類似性を理解することができる。

2-2. 組み合わせパターン

漢字の持つ特徴の1つは漢字が他の文字体系(例えばアルファベット)と異なり平面的(非線形)内包的(長方形的空間内で構成要素が立体的に組み合わせられる)ことである。

(3) (a) * g0 TaLK stuDy (b) 固、湖、親、回、

即ち、漢字は縦軸横軸を持つ2軸の座標上に展開されると同時に内外という2つの基準を持つ空間上に展開されるという複合的組み合わせを持つということが出来る。故に漢字の組み合わせパターンは上下左右内外という6つの位置(position)をもとに8種類にまとめられる。以下にそれを示す。

(4) 漢字構成要素の現れる位置

(1) LEFT : 対象となる構成要素が漢字自体の左側にあるもの (ex) 目、步、舟、イ、山、食、口、etc

(2) RIGHT : 対象となる構成要素が漢字自体の右側にあるもの (ex) 力、斤、火、月、貝、ト、と、etc

(3) TOP : 対象となる構成要素が漢字自体の上部にあるもの (ex) 土、一、竹、雨、彳、今、etc

Internal Coherences in Kanji

Ichiro Kawazoe

Graduate School of Language and Culture, Osaka University

1-8 Matikaneyama, Toyonaka, Osaka, 560 Japan

- (4) BOTTM : 対象となる構成要素が漢字自体の下部にあるもの (ex) 力、女、子、心、木、日、立、etc
 (5) TOP-AND-LEFT : 対象となる構成要素が漢字自体の上部-左側にあるもの (ex) 尸、尸、孝、尸、etc
 (6) LEFT-AND-BOTTOM: 対象となる構成要素が漢字自体の左側-下部にあるもの (ex) 近、走、処、etc
 (7) INNER : 対象となる構成要素が漢字自体の内側にあるもの (ex) 口、矢、玉、古、メ、etc
 (8) ENCLOSURE : 対象となる構成要素が漢字自体の周囲にあるもの (ex) 口、匚、門、門、凵、etc

2-3. 漢字の内的統合の記述例

(5) [明] [暗] [映] [晴] [問]

- (a) 構成要素: [日] [月] [青] [音] [央] [門]
 (b) 位置 : LEFT-AND-RIGHT, BOTTOM-AND-ENCLOSURE
 (c) 内的統合: [明] : 構成要素[日][月] 内的統合= LEFT([日])-AND-RIGHT([月])
 [暗] : 構成要素[日][音] 内的統合= LEFT([日])-AND-RIGHT([音])
 [映] : 構成要素[日][央] 内的統合= LEFT([日])-AND-RIGHT([央])
 [晴] : 構成要素[日][青] 内的統合= LEFT([日])-AND-RIGHT([青])
 [問] : 構成要素[日][門] 内的統合= BOTTOM([日])-AND-ENCLOSURE([門])

(6) [閉] [問] [閉] [問]

- (a) 構成要素: [門] [才] [口] [耳] [日]
 (b) 位置 : BOTTOM-AND-ENCLOSURE
 (c) 内的統合: [閉] : 構成要素[才][門] 内的統合= BOTTOM([才])-AND-ENCLOSURE([門])
 [問] : 構成要素[口][門] 内的統合= BOTTOM([口])-AND-ENCLOSURE([門])
 [閉] : 構成要素[耳][門] 内的統合= BOTTOM([耳])-AND-ENCLOSURE([門])
 [問] : 構成要素[日][門] 内的統合= BOTTOM([日])-AND-ENCLOSURE([門])

3. 漢字の[読み方-意味]パターンとパターン間の弁別情報

(7) a. きしゃのきしゃがきしゃできしゃする。(貴社の記者が汽車で帰社する。)

b. かこうからでたようがんがかこうしてかこうにたった。(火口からでた溶岩が下降して両口に達した。)

漢字の読み方と意味は連関しており日本人は半ば無自覚に適切な文脈上でそれを用いるが外国人留学生にとってその運用は困難である。しかしそこには一定の弁別情報がある。ここでは(a)品詞, (b) 意味特性にのみ言及する。例えば[* 甞ける 甞ける]という表現はありえない。このことからその漢字が持つ文法上の品詞について着目する必要がある。[* 炊ける 甞ける 甞ける]も同様である。また場所格[で]でマークされるには[+PLACE]という意味役割付与を漢字の辞書記述で行う必要がある。さらにこのことは、

(8) a. 今日の月はとてもきれいだ。(月=つき) b. 今日は7月7日である。(月=がつ) c. 今日は月曜日だ。(月=げつ)

という例に示されるような同形異音漢字間の弁別においても活用できると思われる。今後は先に示した(a) (b)の弁別情報を更に細かく下位分類するとともにそれ以外の弁別情報の発見記述についても努めたい。この点については別稿を用意する。

[参考文献]

- 川口義一 (1993) 「コミュニケーションアプローチの漢字指導」『日本語教育80』日本語教育学会
 川添一郎 (1996) 「Geon理論と漢字指導」『帝塚山論集』帝塚山大学
 玉村文郎 (1993) 「日本語における漢字-その特質と教育」『日本語教育80』日本語教育学会
 Irving Biederman (1995) 「心、脳、ネットワークにおける形状認識を説明するジオン理論」『認知科学』
 国際交流基金 日本語交際センター(1992) 『日本語 漢字入門』